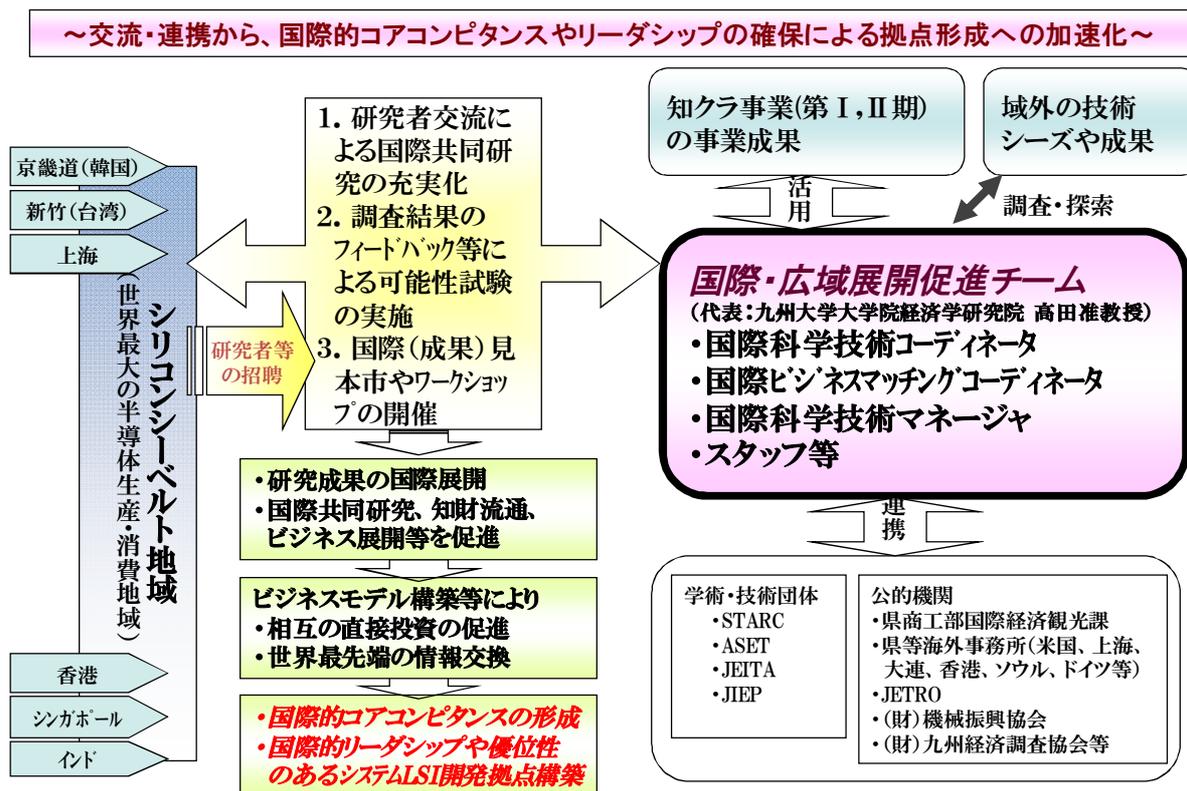


(2) 広域化・国際化及び関連施策等との連携

[2-1 広域化・国際化に関する取組と成果]

知的クラスター創成事業(第Ⅱ期)を開始する以前も、国際化・広域化に向けた取り組みとして、シリコンシーベルト・サミット福岡や半導体実装国際ワークショップ(MAP)等を実施し、着実にシリコンシーベルト地域をはじめとした諸外国との連携・交流は進んでいたものの、本格的な共同研究、成果展開、知財流通、ビジネス展開等の段階には、至っていないのが現状であった。

そこで、知的クラスター創成事業(第Ⅱ期)の広域化プログラムを活用して、従来に比べ交流・連携レベルを一気に充実させると共に、研究成果に基づく国際共同研究、成果展開、知財流通、ビジネス展開等の事例を具体的に創出することを目指した。これにより、相互の直接投資の促進、世界最先端の情報交換等を推進し、国際的なリーダーシップや優位性を確保した福岡先端システムLSI開発拠点形成の加速化を目的に活動を実施してきた(資料10参照)。



資料10: 国際・広域展開促進チーム設置によるSSB研究機関等との広域連携

広域化プログラムを推進するにあたり、まずは、国際科学技術コーディネーターを中心に、6名のスタッフからなる「国際・広域展開促進チーム」を結成し、本プログラムの計画に基づき活動戦略を練り、国内外研究機関等との連携や国内外の技術シーズ・マーケティング調査等を行ってきた。

具体的には、国際共同研究に向けて重点研究テーマを絞り、研究開発と実用化の加速に向けた活動を行うと共に、研究成果の海外での実用化を探るべく実証試験や可能性試験を実施してきた。

また、拠点性の発信・研究者交流に関しては、ワークショップの開催や福岡県・北九州市・福岡市・総務省等と連携し、海外の経済交流訪問団等への参加を行うと共に、知的クラスターウェブページによる情報発信(4カ国語対応)を実施している。

さらに、特出した事項として、20年度に、半導体集積回路用電子回路技術分野ではアジア随一の国際会議であるIEEE Asian Solid-State Circuits Conference(A-SSCC)を開催した。これは、IEEE(米国電気電子工学会)のSSCS(Solid-State Circuit Society:固体回路分科会)が主催する主要な国際会議のひとつである。日本における初の開催地として福岡が指名されたものであり、これはシリコンシーベルト福岡プロジェクトによるシステムLSI開発拠点化推進の成果である。日本、韓国、台湾、中国を始めとするアジア諸国の大学、企業、および公的研究機関の研究者458名(うち海外201名)の参加があり、国際的交流と当クラスターの拠点性の発信を実施することができた。

以上の活動の結果、海外の実用化研究機関との MOU 締結による協力体制の確立と研究者交流の活性化、これらに基づく共同研究等の推進を図ることができた。また、広域化・国際化に関する数値目標については、下表のとおり、中間数値目標を達成した。今後は、これまでの成果をもとに、研究成果の実用化を目指し、海外研究機関との持続的でより一層強固な連携を図るとともに、海外機関の誘致活動に注力することとする。

項目	中間目標	中間実績 (21年度7月末)	最終目標
海外からの参加研究機関・参加者数	5機関 100名	213機関 413名	5機関 500名
海外機関ニーズに基づく可能性試験実施数	3件	4件	7件
国際共同研究実施数	3件	21件	7件
国際特許出願件数	2件	19件	20件
域内への海外機関進出	—	—	10機関

注)数値は全て累計

(研究開発・実用化加速に向けた取り組み)

(国際連携)

当地域の国際競争力を高めるため、これまでに構築してきたシリコンシーベルト(SSB)地域の半導体産業協会等とのネットワークを積極的に活用すると共に、県等の海外事務所とも情報交換を実施しながら、SSB地域である台湾工業技術研究院(ITRI)や韓国電子技術研究院(KETI)、あるいはドイツ・フ라운ホーファー研究機構(FhG)、ベルギーIMEC等の**海外半導体研究機関との連携を推進し、国際拠点ネットワークを充実化させた**。その結果、3件のMOU、2件のNDAを締結した。

(国内連携)

国内クラスター連携に関しては、MEMS分野に実績のある仙台地域、ナノテクノロジー・材料分野(シリコン結晶化技術、磁気薄膜技術等)に実績のある長野地域、四国地域の大学を中心としたLSIテスト技術コンソーシアム等を中心に連携を推進している。

今後、国内外の連携機関と共同研究等を実施することにより、**当地域の国際競争力を高めクラスター形成を加速させる**。

(実用化を目指した実証試験や可能性試験の実施)

知的クラスター創成事業で得られた研究成果の実用化を促進するため、海外機関のニーズ等をふまえ、実証試験や可能性試験を実施してきた。実証試験や可能性試験で得られた成果は、研究テーマにフィードバックされ、成果の実用化へ向けた改善が図られている。

また、知的クラスター創成事業(第Ⅱ期)で得られた研究成果の実用化を促進するために、国等の事業を積極的に活用している。その一例として、バングラデシュで実施した可能性試験の展開例があり、具体的には以下のとおりである。

国際貢献の新たなモデルとして、研究テーマ「放送通信融合時代の次世代共通社会情報基盤の研究開発(九州大学大学院 藤崎准教授)」で得られた成果を、発展途上国・BOP(ベース オブ ピラミッド)諸国の一つであるバングラデシュにおいて展開する。今後、日本貿易振興機構(JETRO)の助成を活用して、グラミンググループと連携し、電子通帳事業等を展開していく。

(海外機関・企業誘致活動)

SSB地域を重点とし、台湾、中国、シンガポール等において、海外機関・企業の誘致活動を積極的に実施している。今後も福岡におけるシリコンシーベルト福岡プロジェクトの取組を訴求し、福岡県・北九州市・福岡市とも情報共有を行いながら、当地域における企業集積を更に高めていく。

(拠点発信・研究者交流に向けた取組)

拠点性の発信・研究者交流として、毎年開催される国際カンファレンスであるシリコンシーベルト・サミット福岡、半導体実装国際ワークショップ(MAP)等にて、広域化プログラムの推進に寄与するセッションを企画、実施して

いる。

また、毎年、国際連携ネットワークを活用し、SSB地域(台湾、韓国等)や欧州(ドイツ、ベルギー)の研究機関や企業から講演者を招聘し、各研究機関の戦略等を紹介する海外研究機関連携セミナー、半導体実装分野での研究者交流、研究者と企業とのビジネスマッチング等を実施している。

さらに、20年度は、(株)半導体理工学研究センターと連携し、アジアにおける半導体集積回路用電子回路技術分野の最大の国際会議である IEEE Asian Solid-State Circuits Conference(A-SSCC)を日本において初めて福岡で開催した。世界各国より半導体関連研究者が参加し、福岡におけるシリコンシーベルト福岡プロジェクトの取組等を訴求することができた。

〈ワークショップ開催〉

知的クラスター創成事業(第Ⅱ期)で実施する研究テーマのワークショップに関しては、ターゲット分野を QOL センサー、半導体三次元実装、エコデバイスを中心に、国際共同研究、実用化に関する連携パートナー探索を目指して開催した。

今後も継続的に研究テーマを核とした研究者交流を行うことにより、広域連携を通じたネットワークを活かし、技術シーズの相互補完による更なる技術の高度化、融合化を強力に推進する。

〈海外研究機関との交流・連携〉

平成20年11月に、知的クラスター戦略本部長である麻生渡(福岡県知事)を団長とした台湾経済交流団を企画し、「ロボット・センサーネットワーク・LSI 技術交流会」を、台湾において開催した。同時に、日台企業商談会を開催し、研究者間の交流や台湾の半導体関連企業との交流・連携を図り、研究成果の発信およびビジネスマッチングを実施した。

また、事業総括がフランスで開催された日仏両主催のクラスターフォーラムで講演を行うと共に、海外のフォーラム等における招待講演として、①セミコンウエスト 2008(米国)、②日台科学技術フォーラム(台湾)、③IP Based Electronic System 2008(フランス)において、シリコンシーベルト福岡プロジェクトの取組や研究成果等を事業総括が発表した。

さらに、21年度7月末までの中核機関への国内外機関の来訪は、延べ123件に達している。うち、海外機関から中核機関への来訪は56件に達している。当クラスターのブランド力は着実に向上しており、今後もクラスター形成へ向けた更なるブランド力向上の取組を行っていく。

〈海外研究機関の展示コーナー設置〉

ドイツ・ブラウンホーファー研究機構(FhG)と台湾工業技術研究院(ITRI)とは、MOU締結後の連携の一環として、当地域の中核施設である福岡システムLSI総合開発センター内に展示コーナーを設け、研究成果物やパネルの展示を行っている。

世界的な研究機関の展示コーナーの設置により、当地域における研究開発活動の国際的拠点性をより一層訴求することができるようになった。

〈ホームページ開設〉

知的クラスター創成事業(第Ⅱ期)専用のホームページを日本語、英語、中国語、韓国語で開設し、各研究成果及び広域企画をインターネットで公開し、広く情報発信した。トップページへのアクセス件数は、2008年5月の HP 開設以来、累計で25,000件を超えると共に、台湾、韓国、中国、アメリカをはじめとした海外からのアクセス件数も550件を超えており、着実にクラスターとしての知名度は向上している。

(ホームページ URL: <http://www2.lab-ist.jp/>)

〈今後の事業展開の方向性〉

これまでの活動として、海外研究機関との交流、共同研究の実施、研究テーマを核としたワークショップの開催、技術動向調査、実証試験等を実施してきた。

今後は、海外研究機関とのネットワークの構築など、従来の活動に加えて、そのネットワークを活用した研究成果の実用化展開に重点をおき活動を行う。また、福岡・北九州・飯塚地域における LSI 関連企業の集積を目指し、国内外企業・研究機関の誘致活動を積極的に推進する。さらに、先端半導体開発に関する一連のインフラを、当地域に整備する構想に基づき、世界各国から LSI 試作や実証試験の依頼が舞い込んでくる拠点化に向けた交流・連携活動を実践する。

これらの取組により、当地域の国際競争力を更に高めると共に、ブランド力を向上させ、国際連携ネットワークを有した福岡先端システム LSI 開発拠点のさらなる充実化を目指す。

〔2-2 知的クラスター創成事業(第Ⅱ期)と地域等における関連施策等との連携〕

1) 地方自治体等の関連施策

福岡県、北九州市において、地域が目指すクラスター構想の実現へ向けて、知的クラスター創成事業(第Ⅱ期)に連携した地域の施策として、次の事業を実施した。

なお、知的クラスター創成事業(第Ⅱ期)の研究開発成果の企業による実用化を加速すると共に、今後の自立化を鑑み財源の一部確保に向け、実用化製品の売上げの1%を10年間、中核機関に納付する「知的クラスター研究成果等実用化支援事業」を21年度より新設した。

事業名称	事業概要及び成果・効果
(福岡県) シリコンシーベルト福岡構想 中核推進体制整備事業	シリコンシーベルト福岡構想の推進組織である「福岡先端システムLSI開発拠点推進会議」の開催、及び各種専門委員会の運営を通じて、シリコンシーベルト福岡構想を強力に推進する。 「福岡先端システムLSI開発拠点推進会議」の会員数は、設立当初に比べ、約 8.2 倍の 318 会員に増加し、連携・交流ネットワークの構築に大きく寄与している。
(福岡県) 知的クラスター(第Ⅱ期)推進 事業	知的クラスター創成事業(第Ⅱ期)推進にかかる事業総括、副事業総括の人的費や産学官共同研究の推進に必要な会議開催費、特許関連経費、成果発表会経費、研究開発費等を地域で負担することにより、産学官共同研究を強力に推進する。 知クラ事業(第Ⅱ期)に連携した取組の相乗効果が発揮され、クラスター形成推進に寄与している。
(福岡県) 福岡システムLSIカレッジ人 材養成事業	産学官が一体となって設立した「福岡システムLSIカレッジ」において、将来を担うシステムLSI開発技術人材を養成し、企業・人材の一大集積を図る。 これまで同カレッジにおいて養成したシステムLSI開発人材は、5,800名を超えており、クラスター形成推進に寄与している。
(福岡県) システムLSI設計・検証ラボ 運営事業(福岡システムLSI 設計試作センター運営事業)	ベンチャー企業等が利用できるシステムLSI設計・検証のためのオープンラボを整備・運営し、新たなシステムLSIチップを生み出すことのできる設計開発ベンチャー企業の創出・育成を図る。約 50 種類もの最先端ツールを低額料金で提供する他、システムLSI開発の一連の工程を、一貫して支援する機能を有しており、中小・ベンチャーに最先端の開発環境を提供する全国唯一の先進的な施設となった。
(福岡県、北九州市、福岡 市) システムLSIフロンティア創出 事業	ベンチャー企業等が行うシステムLSI関連の新製品開発を支援(開発に要する経費の一部を補助)することで、次世代のフロンティアを担うLSI関連研究開発型企業群の創出を図る。 これまでに 23テーマを実施し、うち 12 件が製品化に成功しており、地域のベンチャー企業等が行うシステムLSI関連の新製品開発に大きく寄与している。
(福岡県) シリコンシーベルト・サミット等 国際連携推進事業	シリコンシーベルト地域における半導体分野のオピニオンリーダー等を集めた国際会議「シリコンシーベルト・サミット福岡」を開催し、連携強化を図ると共に、システムLSIに関する情報発信拠点を目指す。 20 年度に開催した「シリコンシーベルト・サミット福岡」では、658 名が参加し、福岡の拠点性発信とネットワーク形成の場としての認知度が広まりつつある。
(福岡県) 福岡システムLSI総合開発セ ンター管理運営事業	システムLSIに関する人材育成から研究開発、ビジネス展開にいたる全てを支援する、システムLSIに特化した総合施設「システムLSI総合開発センター」を管理・運営し、開発拠点化を強力に推進する。 「システムLSI総合開発センター」への入居企業は、21年8月現在で 56 社あり、知クラ事業(第Ⅱ期)に連携した取組の相乗効果が発揮され、クラスター形成推進に寄与している。
(福岡県) システムLSI雇用創出支援事 業	中小・ベンチャー企業等が、失業者を新規雇用し、システムLSI関連の新製品の事業化を図る場合、その人件費相当額を委託費として助成する事業。 中小・ベンチャー企業等のシステムLSI関連新製品の事業化推進が見込まれ、知クラ事業(第Ⅱ期)に連携した取組の相乗効果により、クラスター形成推進への寄与が期待される。
(福岡県) システムLSI設計試作センタ ー機能強化事業	LSI実装関連機器を福岡システムLSI総合開発センターのクリーンルーム内に設置し、LSI関連企業向けに低額な利用料金で提供する事業。 中小・ベンチャー企業等のシステムLSI関連新製品開発の推進が見込まれ、知クラ事業(第Ⅱ期)に連携した取組の相乗効果により、クラスター形成推進への寄与が期待される。

(福岡県) 知的クラスター研究成果等実用化支援事業	知的クラスター創成事業(第Ⅱ期)等で得られた研究成果の実用化を支援する事業。委託費として、実用化する企業への支援を実施。 知クラ事業(第Ⅱ期)等で得られた成果の実用化加速が見込まれ、クラスター形成推進への寄与が期待される。
(北九州市) 知的クラスター(第Ⅱ期)推進事業	知的クラスター創成事業(第Ⅱ期)に関連して、北部九州での基盤的ものづくりの国際競争力を高め、産業構造の変革を強力に促進する知的基盤とイノベーションの仕組みづくりを推進する。 知クラ事業(第Ⅱ期)に連携した取組の相乗効果が発揮され、クラスター形成推進に寄与している。
(北九州市) カーエレクトロニクス拠点化整備推進事業	北九州学術研究都市内にカー・エレクトロニクスセンターを設置し、産学連携によるカーエレクトロニクス関連の人材育成、研究開発を行う。 知クラ事業(第Ⅱ期)と連携したカーエレクトロニクス関連の人材育成や研究開発等の推進による相乗効果が発揮され、クラスター形成推進に寄与している。
(北九州市) 半導体産業振興事業	総合的な半導体産業拠点の形成を目指すため、半導体技術センターを核として半導体設計のベンチャー企業・開発型中小企業の育成や実戦的な人材育成を行い、半導体産業クラスターの形成を行う。 知クラ事業(第Ⅱ期)と連携した半導体設計の中小・ベンチャー企業の育成や実戦的な人材育成の推進による相乗効果が発揮され、クラスター形成推進に寄与している。
(北九州市) ロボット産業振興事業	「FAISロボット開発支援室」等を中核として、次世代ロボットの実用化・事業化のための支援を行うほか、ロボット産業を支える人材の育成やビジネス化に必要な環境整備を行う。 知クラ事業(第Ⅱ期)と連携したロボット振興会議の運営等を通じた相乗効果が発揮され、クラスター形成推進に寄与している。
(北九州市) 学術研究都市管理運営事業	ICやMEMSの試作などを行う製造装置の開放や、微細加工技術を応用した新しいビジネス創造を目指す企業などに対して、研究室の提供などを行う。 ICやMEMSの試作などを行う製造装置の活用による新製品開発等を通じた相乗効果が発揮され、クラスター形成推進に寄与している。
(北九州市) 学術拠点推進事業	地域クラスターの基盤となる北九州学術研究都市の一体的運営、大学間連携、留学生支援、産学連携、地域連携及び中小企業支援等を推進する。 知クラ事業(第Ⅱ期)に連携した取組の相乗効果が発揮され、クラスター形成推進に寄与している。

2) 国の関連施策

九州地域では、過去約30年間に培われてきた半導体技術を核として、シリコンアイランド九州の再生・自立的発展を目指す「九州シリコン・クラスター計画」(九州経済産業局と九州半導体イノベーション協議会)が進行している。

シリコンシーベルト福岡では、この九州シリコン・クラスター計画との緊密な連携、協力体制を構築しており、九州経済産業局、福岡県、北九州市、各クラスター計画の中核機関の6者合同による「九州地域半導体クラスター推進連絡会議」を設置し、国・地域全体として積極的にクラスター計画を推進している。

また、地域が目指すクラスター構想の実現へ向けて、知的クラスター創成事業(第Ⅱ期)等で得られた研究成果の実用化・事業化等を促進するために、国の関連事業・施策を活用し、**クラスターとして厚みのある施策を展開**している。

3)その他

(地域におけるクラスター形成促進のためのインフラ整備)

○システム LSI 設計試作センターの整備

中小・ベンチャー企業に、最先端のシステムLSI開発環境を提供する全国唯一の総合支援施設として、「システムLSI設計試作センター」を平成20年10月にリニューアルオープンした。約50種類もの最先端の設計ツールを低額な料金で提供するほか、システムLSIを開発する一連の工程を一貫して支援する機能を有している。

○北九州学術研究都市におけるインフラ整備

北九州学術研究都市においては20年7月に「技術開発交流センター」が整備され、既存の設備と共に、半導体チップの設計、製造、評価/テストを一貫して行うことができる環境を整備した。これに加え、連携支援機関である(財)北九州産業学術推進機構(FAIS)では、高度なIT環境を必要とする北部九州の研究者に対し、高い処理能力を有するマルチコアプロセッサ Cell/B.E.を活用した研究開発環境の提供を開始した。

また、重要性が高まっているカーエレクトロニクス分野の拠点化を推進する機関として、19年7月、FAIS に「カー・エレクトロニクスセンター」を開設し、カーエレクトロニクス分野における研究開発を推進すると共に、北九州学術研究都市3大学(北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学)による「北九州学術研究都市連携大学院 カーエレクトロニクスコース」を開設し、実践力を有する高度専門人材の育成を加速させている。

さらに、地域における異分野連携、異業種企業間の連携拡大を促進する目的で、北九州オープンイノベーションネットワークの立ち上げを今年10月に予定する等、地域におけるクラスター形成拠点のインフラ充実を図っている。

このような北九州学術研究都市の取組は平成20年度文部科学白書に地域と大学の特徴的な取組として紹介されている。

○LSI 設計開発、実装、実証まで一貫して支援可能な「半導体開発プラットフォーム」の構築(構想、資料11 参照)

先端半導体の高機能化にとって、ワンチップの微細化による高集積化の追求と同時に異種機能チップの混載や多層化による実現が大きな流れとなっており、いわゆる実装とよばれる半導体後工程の分野の重要性が高まっている。

そこで最先端の実装設計ツール、部品内蔵基板等の実装試作設備、検証設備を完備した産学官共同拠点施設「半導体先端実装研究評価センター(仮称)」を整備し、先端実装技術の研究開発を加速するとともに、関連企業の集積を促進する。併せて開発した製品を社会的にシステムとして実証するための拠点「先端社会システム実証研究センター(仮称)」を整備することによりシステム LSI 関連製品の市場投入を加速する。

既設の半導体上流設計並びに人材育成の拠点である「福岡システム LSI 総合開発センター」にこの2拠点が加わることにより、先端半導体に関する設計開発、実装、実証まで一貫して支援可能なプラットフォームを構築し、シリコンシーベルト福岡プロジェクトをさらに発展させ、先端システム LSI 開発クラスターとしての自立化を図る。



資料11: クラスター形成促進のためのインフラ整備

(地域の民間団体の取組)

○フクオカ・ベンチャー・マーケット(FVM)

(財)福岡県産業・科学技術振興財団では、ベンチャーの育成・支援の一環として、ベンチャー企業とビジネスパートナーをつなぐマッチングの場を提供する「フクオカ・ベンチャー・マーケット(FVM)」を、平成11年11月に開設した。開始以来、毎月 FVM を開催しており、これまでに117回の開催実績がある。

FVM では、ベンチャー企業等が自社のビジネスプランを発表し、ビジネスパートナーとの間の資金調達、販路拡大、業務提携等の支援を行っている。

21年3月までの実績として、延べ1,600社以上が登壇して、資金調達等の商談成約率は約17%に達すると共に、FVM 登壇を経験した企業の上場企業数も22社に達しており、**ベンチャーの育成・支援に大きく寄与**している。

○九州ベンチャーパートナーズ(株)(KVP)

地元経済界を中心に、平成15年11月に設立された地域密着型ベンチャーキャピタル会社である。

全国、九州の企業と公的資金でファンドを組成し、県内LSIベンチャーなど、九州と中心とする優秀なベンチャー企業に対する投資・育成活動を展開している。

九州経済の活性化や次世代を担う経済人の育成を図るプラットフォームの一つとして、**半導体関連ベンチャー一等の育成に大きな役割**を果たしている。

○NPO法人 半導体目利きボード(STM)

九州を中心とする半導体関係者(エンジニア、経営者、研究者等)の「コミュニティ」の核となる組織として平成16年9月に設立されたNPO法人である。

STMに結集する人材ネットワークを活用し、企業や研究機関の有する半導体技術の評価、海外半導体企業の評価・連携、ベンチャー企業のコンサルティング等の事業を展開している。

半導体技術の高度化、市場活性化、技術力の高い半導体企業の発掘・育成に大きく貢献している。

○NPO法人 九州組込みソフトウェアコンソーシアム(QUEST)

九州での組込みソフトウェア技術者のコミュニティ作りとその運営、高信頼化組込みソフトウェア開発技術等の確立と普及、高信頼化組込みシステムに関する技術者の講習会等による技術交流を目指して、平成20年8月に、NPO法人 九州組込みソフトウェアコンソーシアム(QUEST)を設立した。

本NPO法人の理事長は、研究テーマ1(車載組込みソフトウェア向け状態遷移表モデル検査技術の研究開発)の研究代表である九州大学システムLSI研究センター長の福田教授が務めている。

本NPO法人の企業会員数も54団体にのぼっており、**九州地区における組込みソフトウェア関係の技術高度化及び市場の活性化、並びに技術力の高い組込みソフトウェア企業の育成に多大な寄与**をしている。

(大学等の取組)

知的クラスター創成事業(第Ⅱ期)においては、福岡県における国内トップクラスのシステムLSI分野研究者集積を活かし、九州大学、九州工業大学、早稲田大学、北九州市立大学、福岡大学等を中心に、20年度末で約250名の大学研究者が参画する研究開発を実施しており、地域のシステムLSI関連研究者を結集させた取組を行っている。

また、地域の人材育成を担う福岡システムLSI カレッジの立ち上げから運営に際して、九州大学システムLSI研究センターや九州工業大学を中心とする教員が多数参加すると共に、寄付講座を設置して、福岡システムLSI カレッジの運営の一翼を担ってきた。

さらに、2005年秋からは、科学技術振興調整費により九州大学システムLSI人材養成実践プログラム(QUBE)を開始し、3名の専任教員を雇用して上級コースのシステムLSI関連人材の育成を行ってきた。

QUBEと福岡システムLSIカレッジが、連携して人材育成事業を実施することにより、**地域において、初級コースから上級コースまで、一貫したシステムLSI関連人材の養成が可能**となっている。

(セクター横断的な取組)

国際競争力のある新産業を創出するために、福岡県では、県内にポテンシャルがあり、今後、大きな成長が見込まれる特定の産業分野に着目し、その先端成長産業の育成と拠点化を推進している。

拠点化を目指すために、次に示す8つの戦略プロジェクトを展開している。

(福岡県で取り組んでいる8つの新成長産業クラスター政策)

- ①システム LSI 関連産業の拠点化(シリコンシーベルト福岡プロジェクト)
- ②バイオテクノロジー関連産業の拠点化(福岡バイオバレープロジェクト)
- ③水素エネルギー新産業拠点化(福岡水素戦略 Hy-life プロジェクト)
- ④低炭素社会実現に向けた拠点化(環境モデル都市、石炭ガス化プロジェクト)
- ⑤ナノテクノロジー関連産業の拠点化(ナノ福岡21プロジェクト)
- ⑥ロボット関連産業の育成拠点化
- ⑦アジア自動車最先端拠点化(北部九州自動車150万台生産拠点推進構想)
- ⑧情報・コンテンツ産業の拠点化

(新成長産業クラスター連携融合拠点の形成について)

平成21年3月、文部科学省と経済産業省では、共同で各種の施策を有機的に組み合わせて総合的・集中的に実施する「グローバル産学官連携拠点」の構築を目指した取組が開始された。

これを踏まえ、福岡県では、国際優位性のあるクラスターを形成するためには、現在、個別に進んでいる8つの戦略プロジェクトの研究開発を融合・連携させることによる産業構造転換が必要であると考え、地域の産学官が一体となって、「グローバル産学官連携拠点」に提案し、平成21年6月に拠点の選定を受けたところである。

今回選定された「グローバル産学官連携拠点」構築構想は、システムLSIを中心とした8つの戦略プロジェクトが、研究開発、実用化・事業化、人材育成、広域活動といった様々なフェーズで連携融合することにより、新成長産業の創出、地域産業の高度化・グローバル化を加速する仕組みを構築しようとするものである。

今後、世界をリードする先端システムLSIの開発拠点化を含めた「グローバル産学官連携拠点」構築へ向けて、知的クラスター戦略本部長である麻生知事が自ら先頭に立ち、国際優位性のあるクラスターとなるために、当地域のクラスター形成へ向けた取組を推進する。